

令和7年1月8日

令和6年度3学期 始業式 挨拶

皆さん、おはようございます。あけましておめでとうございます。新年を迎えました。冬休みは2週間ほどの短い休業期間ではありましたが、どうだったでしょうか。暦の上では、寒の入りとあって、1年で最も寒さが厳しい時期を迎えました。だらっとした気分を引きづっている人もいるかもしれませんが、今日から気持ちを切り替えて、また新たな一步を踏み出しましょう。

さて、日本では年の暮れから年明けにかけての時期が1年で最も華やかな、また、節目として大切な時期でもあります。様々な日本の文化が形を変えていく中で、正月を中心とした数日間の特別な感覚はいまだに根強い存在感をもっています。皆さんの中にも、日ごろ会う機会の少ない親戚の人に会ったり、遠くで暮らす祖父母やいとこの人と会ったりした人もいたかもしれません。

日本はこの100年の間で、家族の在り方が大きく変わり、三世代にわたって大家族で暮らす形態が、「核家族」と呼ばれる小さな家族の単位に変わり、もはやその「核家族」という呼び名も古いものになるようとしています。そのため、正月のような特別な場面で、初めて自分の親戚にあうことが特別な儀式のようになっているのが、今の私たちの状況であるともいえます。こんな人ともつながりがあったのか、ということ幸せなことだと思えることでもあります。反対に、家族という単位が私たちを取り囲む「鎖」となって、自分を縛ってしまうこともあるかもしれません。

この先、皆さんが社会の一線で活躍する時代には、家族の形がさらにその姿を変えていることは確実です。家族や親せきの人との出会いが幸せに感じられた人はそのつながりをこれからも大切にしていってほしいと思います。一方で、家族が自分を縛るものとなっている人は、家族という単位以外にも私たちをつなぐものは他にもあるのだ、ということ、私たちは様々な形でお互いにつながりをもつ時代を生きているのだ、ということ覚えておいてほしいと思います。家族という単位に期待できる人も、期待できない人も、自分を取り巻く人に、時には頼り、時には頼られ、というつながりの中で今日を過ごしていくことは、新しい年を迎えても変わりません。SNSのような存在が過度に私たちの日常に入り込んでいる現代社会では、人と人とのつながりが、ますます大切なものになっています。幸せな家族に囲まれた自分の環境に甘えたり、家族の中で悩む自分の環境に絶望したり、同じ学校に通う人たちの中でも受け取り方は様々だと思いますが、どこかで自分とつながる人が必ずいることを意識してほしいと思います。つながる人は、家族でもそうでなくても構いません。年齢も性別も関係なく、生身の人間として、自分から頼ることができ、時に頼られることもあるような、誰かとつながることを意識する、そんな1年であってほしいと思います。

始業式で、受験について触れないのか？と思った人もいるかもしれません。受験よりも大切なことは世の中に山ほどありますから、今日は触れませんでした。

私からの話は以上です。